日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

International Science Council

# 国際学術会議
# International Science Council（ISC）

# 概要

2024年11月

日本学術会議国際委員会ISC等分科会

# ISCとは

International Science Council

## 世界最大の分野横断型学術団体

### 設立

1931　国際科学会議（ICSU）設立

1952　国際社会科学評議会（ISSC）設立

2018　ICSUとISSCが合併、ISC設立

### 目的

科学に関する世界的代弁者として、
科学的根拠に基づく意思決定を支え、
地球規模の課題に関する
国際的な科学調査や研究を支援

### メンバー

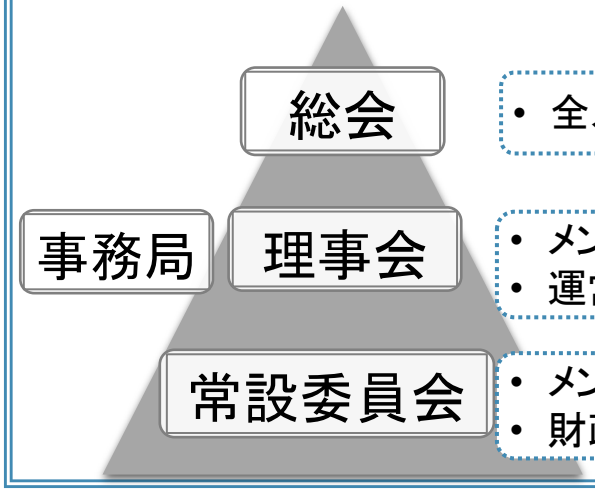
| 148 | 43 | 58 |
|---|---|---|
| ナショナル・アカデミー | 国際学術団体 | 関連団体 |

日本学術会議 SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

### 年間予算（2023年度）

約630万€（分担金及び任意拠出金）

### ガバナンス




- 全メンバーで構成・3年毎開催

- メンバーから選出・年2回開催
- 運営方針・戦略・予算等策定

- メンバーから選出
- 財政、広報等計6分野で活動

# ISCの事業と社会への貢献

International Science Council

**ビジョン**
世界の公共財としての科学の推進

**ミッション**
科学を代表する声となる

## 主な事業分野

### 定常的な事業

#### 国際的な科学イニシアチブの主催・共催
- 政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク（INGSA）
- 国際研究プログラム
- 国際科学委員会
- 国際データ機関
- 世界観測システム

#### 国際的な政策枠組み・政府間ネットワークへの参画
- 持続可能な開発目標（SDGs）
- 気候変動枠組条約（UNFCCC）
- 仙台防災枠組み
- New Urban Agenda
- 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学・政策プラットフォーム（IPBES）
- 国際資源パネル（IRP）
- 全地球観測システム（GEOSS）
- COVIDー教育同盟

#### 研究ファンドのマネジメント

### その他

#### アクション・プランの作成と実行

## 主な貢献

### 国際機関への参画
- UNESCO等国連の5機関、多国間枠組み（UNFCCC, UNDRR, UN Habitat, SDGs、等）に学術界代表として参画

### 気候・海洋の観測・データ収集
- 世界気象機関（WMO）、UNESCO-IOC等と、全球気候観測システム（GCOS）等を通じ温室効果ガスの世界的動向を解析、全球海洋観測システム（GOOS）を通じ海洋観測を実施・海洋データベースを運用

### 政府への科学的助言
- 2014年、前身のICSUがINGSAの設立を提案
- 喫緊の課題につき議論の場を提供、若手科学者を対象に科学助言の方法と能力開発を実施

# 日本学術会議・日本の科学者による ISCへの貢献

International Science Council

## 組織運営への貢献

2021-24 小谷元子連携会員 （東北大学理事・副学長）： 副会長（科学と社会担当）
白波瀬佐和子会員（東京大学大学院人文社会系研究科教授）：副会長（財務担当）

2022-25 隠岐さや香連携会員 （東京大学大学院教育学研究科教授）：科学の自由と責任に関する委員会（CFRS）委員

2023-26 氷見山幸夫前連携会員（北海道教育大学名誉教授）：アジア・太平洋拠点アドバイザリー・ボード委員

## 財政的貢献

- 分担金の拠出（米、中、独 に次ぐ拠出額（約7.5%））

## 学術的貢献

- 学術会議の開催・共催（例：2018年世界社会科学フォーラム（WSSF）の開催）
- 国際学術団体等を通じてISC活動へ多数の日本学術会議会員・連携会員が参画

### 例：南極観測・研究を通じた地球環境問題解明への貢献

- 南極観測はISCの前身ICSUが主体となり開始。現在はISCの学際的委員会・南極研究科学委員会（SCAR）が主体となって活動。南極オゾンホールの発見、隕石採取による惑星進化過程の解明、採取した氷床コアからの気候変動の精密分析等の成果は日本の貢献によるもの。
- 日本は日本学術会議の委員会主導で南極観測を開始。現在、日本学術会議の国内委員会（SCAR小委員会）が中心となり、海洋生物モニタリングに関するSO-CPRの議長、データマネージメントに関するSCADMの副議長等のポストに日本人を輩出しつつ、国の事業として多くの府省庁が観測・研究活動に関与。

# ISCの活動の将来展望

International Science Council

## 事業実施を通じた科学調査・研究の支援等

◆ 定常的な事業の実施を通じた科学調査・研究の実施・支援

◆ 地球規模課題への科学的側面からの対応

- 現在「アクションプラン2022-2024」を実行中

科学的な優先課題

- グローバルな持続可能性
- デジタル時代の科学と技術の融合
- 政策と公衆対話における科学
- 科学における慣行と科学システムの変革
- 科学の自由と責任

## 組織運営上の取組

◆ 組織活動の強化：優先課題への取組

組織的な優先課題

- メンバーとの効果的関係の構築（エンゲージメントポリシーの策定等）
- メンバーの拡大（医学、公衆衛生等の分野、地域、機関への拡大等）
- 知名度の向上と影響力の強化（パトロンの増加、国際学術団体との連携強化等）
- 資金動員の加速（寄付に係る指導原則の策定、公益信託基金設立の検討等）
- 説明責任の強化（ピアレビューの実施等）